昭和工業所での五日間のインターンシップ

福山大学経済学部国際経済学科３年生の林　志文（リン　シブン）です。

この夏休みに、岡山県井原市にある昭和工業所で、五日間のインターンシップに参加しました。毎朝十時から午後五時まで実習を行い、普段の学校生活では経験できない、貴重な体験をすることができました。

実習内容

毎日、社長が車で送迎してくださいました。社長はとても親切で、車の中でもよく話しかけてくださいました。最初は少し緊張していましたが、社長が優しく接してくださったので、安心してインターンシップに参加することができました。

会社では、先輩について歯車部品の CAD 平面設計について学びました。CAD を使って図面を作成する作業では、細かい数字や線を正確に扱う必要があり、集中力が大切だと分かりました。実際の会社で使用されている図面を見たり、製品を作るための設計を体験したりすることで、CAD が製造現場でどのように役立っているのかを具体的に理解することができました。

また、実際に歯車部品のバリ取りも体験しました。部品を傷つけないように注意しながら、表面に残っている小さなバリを丁寧に取り除きました。一見簡単そうに見えましたが、きれいに仕上げるためには、集中力と丁寧さが必要でした。

さらに、ノギスなどの測定工具の使い方も教えていただきました。完成した部品は一つ一つ寸法を測定し、図面どおりにできているかを確認しました。少しの誤差でも製品の品質に影響するため、正確に測定することが非常に重要だと学びました。ものづくりでは、製品を作ることだけでなく、完成後に細かく確認することも大切だと感じました。





【工具とものづくりの現場：文系の私には初めて見る工具がたくさんありましたが、どれも整然と整理されていました。社員の方に教えていただいた後、歯車部品のバリ取りや寸法検査にも、自分から取り組むようになりました。】

社会人として学んだこと

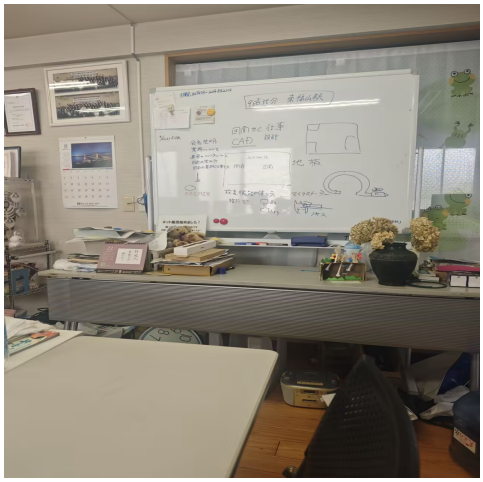
今回のインターンシップを通して、仕事の知識や技術だけでなく、社会人に必要な力も身につけることができました。特に成長したと感じたのは、コミュニケーション能力です。私は外国人留学生なので、日本語にまだ自信がなく、実習の最初は日本人と話すことを少し怖く感じていました。分からないことがあっても、分かったふりをしてしまうことがありました。

しかし、仕事では分からないまま進めると間違いにつながってしまいます。そのため、実習中は分からないことがあれば、自分から先輩に質問するように努力しました。本当に理解できない時には、分かったふりをせず、「もう一度教えていただけますか」とお願いしました。先輩方はとても親切で、私がうまく日本語で説明できない時も、最後まで根気強く話を聞いてくださいました。この経験から、分からないことを正直に伝え、相手に確認することの大切さを学びました。

また、主体性も身につけることができました。実習中、会社が忙しく、先輩がずっと私のそばで指導することが難しい日が二日間ありました。その時、何もせずに待つのではなく、自分で周りを見て、できる仕事を探しました。まだバリ取りをしていない部品があることに気づいた時は、自分から進んで作業をしました。また、寸法検査が終わっていない部品を見つけた時も、先輩に確認してから自分で測定を行いました。

この経験を通して、指示を待つだけではなく、自分から考えて行動することが大切だと学びました。仕事の現場では、周囲の状況をよく観察し、自分にできることを考えて行動する力が必要だと感じました。

また、社長は仕事のことだけでなく、福山市や備後地方についてもたくさん話してくださいました。地域の歴史や産業、生活の様子などについて話を聞くことができ、日本の地域社会についても興味を持つようになりました。最終日には、社長が美星天文台にも連れて行ってくださいました。きれいな星空を見ることができ、とても感動しました。五日の最後に素晴らしい思い出ができ、社長の皆様の温かさを改めて感じました。





【左は整理整頓された作業環境：ものづくりの現場では、整理整頓も大切な仕事の一つだと感じました。】
【右は美星天文台―昼間の星空：ご多忙の中、美星天文台を案内してくださった社長さんのご厚意に感激しました。肉眼では見えない昼間の星は、青空に溶け込む白い点のように、静かに輝いていました。大学で学べることは、まだほんの一部。外に出れば、まだ知らない世界が広がっています。精密な部品を一つひとつつくる仕事も、遠い宇宙に静かに輝く星も、私にとっては未知の世界へ踏み出す第一歩です。】

この五日間は、毎日新しいことを学ぶことができ、とても充実していました。CAD 設計、バリ取り、測定工具の使用、製品の寸法検査など、ものづくりに必要なさまざまな作業を体験しました。それだけでなく、積極的に質問すること、分からないことを正直に伝えること、自分から仕事を探して行動することの大切さも学びました。

昭和工業所で過ごした五日間は、私にとって忘れられない思い出になりました。この経験をこれからの日本語の勉強や学校生活、将来の仕事に生かしていきたいと思います。最後に、五日間温かく受け入れてくださった社長と社員の皆様に、心から感謝しています。